

令和8年度 発生予察情報	<b>発生予報第3号（概要版）</b>	令和8年6月24日発行 宮城県病害虫防除所 (TEL:022-275-8982)
-----------------	---------------------	--

品目	病害虫名	発生予報	病害虫名	発生予報
水稲	いもち病 (葉いもち)	発生時期: 平年並 発生量: 平年並	紋枯病	発生量: やや多
	稲こうじ病	発生量: 平年並	—	—
	斑点米カメムシ類	発生時期: やや早い 発生量: 平年並	コバネイナゴ	発生時期: 平年並 発生量: やや少
りんご	斑点落葉病	発生量: やや多	モモンクイガ	発生量: 平年並
なし	黒星病	発生量: 平年並	—	—
きゅうり	うどんこ病	発生量: やや多	褐斑病	発生量: 平年並
	べと病	発生量: 平年並	—	—
トマト	アザミウマ類	発生量: 平年並	コナジラミ類	発生量: やや多
いちご	炭疽病	発生量: 平年並	ハダニ類	発生量: 平年並
作物共通害虫	オオタバコガ	発生量: 平年並	ハスモンヨトウ	発生量: 平年並

## 農薬危害防止運動実施中！

宮城県では、令和8年6月1日から8月31日を農薬危害防止運動実施期間と定め、農薬の安全・適正使用を推進しています。農薬による事故を未然に防ぎ、消費者の皆さんに安全・安心な農作物を届けるため、農薬は適正に使用しましょう。

- ① 農薬容器のラベルをよく読みましょう
- ② 土壌くん蒸剤を使用した後は適切な管理をしましょう
- ③ 住宅地等で農薬を使用する際には、周辺への配慮及び飛散防止対策をしましょう
- ④ 農薬の保管管理を徹底しましょう



農薬危害防止運動  
リーフレット

より詳しい内容は、下記ホームページでご確認ください。  
宮城県病害虫防除所 <https://www.pref.miyagi.jp/soshiki/byogai/>  
次回、発生予報第4号の発行日は令和8年7月23日(木)の予定です。



★宮城県病害虫防除所から『メルマガ』で  
発生予察情報の発表をお知らせしています★

宮城県病害虫防除所 メルマガ  
トップページ 登録フォーム

## ー7月下旬までの発生予報と防除のポイントー

巡回調査:6月 12 日～18 日

定点調査ほ:大崎市古川大崎(古川農業試験場)

天候予報:仙台管区气象台6月 18 日発表

### 1 発生予報

病害虫名	発生時期 (全般発生期※)	発生量
いもち病 (葉いもち)	平年並 (7月第3半旬:7/11～7/15)	平年並

※全般発生期:1地点 25 株調査により県内で広く葉いもちが確認される時期

#### 予報の根拠

- (1) 定点調査ほ(品種「ひとめぼれ」)における葉いもちの発生は確認されなかった。(±/ )
- (2) 巡回調査の結果、残苗調査及び本田の 1000 株調査では葉いもちの発生は確認されなかった。( /±)
- (3) 6/22 日現在の BLASTAM による感染好適条件の推定結果では、6月中旬に県内の一部地域で感染好適条件が出現している。( /±)
- (4) 平均気温が 19～25℃、曇りや雨が多いことが発生に好適であり、向こう1か月の平均気温は平年並か低く( /±)、降水量及び日照時間はほぼ平年並と予報されている。( /±)

病害虫名	発生時期	発生量
紋枯病	ー	やや多

#### 予報の根拠

- (1) 前年の発生量が平年よりやや多かったことから、伝染源量はやや多いと推測される。( /+)
- (2) 巡回調査の結果、発生は確認されなかった。( /±)
- (3) 高温多湿が発生に好適であり、向こう1か月の平均気温は平年並か低く( /±)、降水量はほぼ平年並と予報されている。( /±)

病害虫名	発生時期	発生量
稲こうじ病	ー	平年並

#### 予報の根拠

- (1) 前年の発生量が平年よりやや少なかったことから、伝染源量はやや少ないと推測される。( /ー)
- (2) 穂ばらみ期が低温で、降雨日数の多いことが発生に好適であり、向こう1か月の平均気温は平年並か低く( /±)、降水量はほぼ平年並と予報されている。( /±)

病害虫名	発生時期 (第1世代発生盛期)	発生量
斑点米カメムシ類	やや早い (7月第3半旬:7/11～7/15)	平年並

#### 予報の根拠

- (1) 定点調査の結果、アカスジカスミカメの越冬世代成虫発生盛期は6月第3半旬であり、平年(6月第4半旬)よりやや早かった。(ー/ )
- (2) 高温が発生に好適であり、向こう1か月の平均気温は平年並か低いと予報されている。( /±)

病害虫名	発生時期 (本田侵入盛期)	発生量
コバネイナゴ	平年並 (7月第2半旬:7/6~7/10)	やや少

### 予報の根拠

- (1) 6月第4半旬の定点調査(雑草地・畦畔)の結果、幼虫は若齢幼虫が主体であった。(±/ )
- (2) 巡回調査の結果、畦畔際の発生量は平年よりやや少なかった。( /-)
- (3) 高温が発生に好適であり、向こう1か月の平均気温は平年並か低いと予報されている。( /±)

### ※ 予報の根拠 (発生時期 / 発生量)

発生時期・・・(+):遅くなる要因 (±):平年並になる要因 (-):早くなる要因 (空欄):該当せず  
発生量・・・(+):多くなる要因 (±):平年並になる要因 (-):少なくなる要因 (空欄):該当せず

## 2 防除のポイント

### (1) 共通事項

・病害虫の薬剤抵抗性の発達防止のため、RAC コードが同じ薬剤の連用を避け、計画的にローテーション散布を行う。

### (2) 葉いもち、穂いもち

- ・7月中旬以降は予防粒剤(育苗箱施用剤、水面施用剤)の効果が低下し始めるとともに、追肥で葉色が濃くなり、葉いもちが感染しやすい環境となるので特に注意する。
- ・上位葉での発病は穂いもちの重要な伝染源になるので、葉いもちの発生が確認された場合は速やかに茎葉散布剤を散布する。
- ・穂いもち予防のため水面施用剤を施用する場合は、ほ場をよく観察し、出穂期を基準に使用時期(出穂 20～10 日前頃)を失ないように注意する。
- ・BLASTAM による葉いもちの感染好適条件の推定結果は、以下のHPを参照する。  
<https://www.pref.miyagi.jp/soshiki/byogai/blastam.html>

### (3) 紋枯病

- ・前年に形成された菌核が翌年の伝染源となるため、紋枯病が前年に発生したほ場では要防除水準を参考に防除を検討する。
- ・紋枯病の要防除水準は、出穂直前(穂ばらみ期)の発病株率で判断する。被害の許容水準を収量の減収率で5%以上とする場合、「ひとめぼれ」では18%、「ササニシキ」では10%、「コシヒカリ」では29%である。
- ・防除は穂ばらみ期の水面施用剤又は穂ばらみ期～出穂期の茎葉散布剤を施用する。

### (4) 稲こうじ病

- ・前年に形成され土壌表面に落下した厚壁孢子が翌年の伝染源となるため、稲こうじ病が前年に発生したほ場では防除を検討する。
- ・銅剤による防除は出穂 20～10 日前が散布適期である。
- ・窒素肥料の多用は発生を助長するおそれがあるため、追肥の多用は避ける。

### (5) 斑点米カメムシ類

- ・水田周辺に生息している斑点米カメムシ類の密度を低くするため、7月中旬までに水田周辺の雑草の刈取りを実施する。
- ・水稻の出穂前後の畦畔の草刈りは斑点米カメムシ類を水田内に追い込むことになるため、水稻が出穂する10日前までに行う。

### (6) コバネイナゴ

- ・齢期が進んでから薬剤散布を行うと防除効果が低下するので、中齢幼虫(体長 1.5cm程度)が見られる本田侵入盛期までに防除を行う。

## 農薬危害防止運動実施中！

宮城県では、令和8年6月1日から8月31日を農薬危害防止運動実施期間と定め、農薬の安全・適正使用を推進しています。農薬による事故を未然に防ぎ、消費者の皆さんに安全・安心な農作物を届けるため、農薬は適正に使用しましょう。

- ① 農薬容器のラベルをよく読みましょう
- ② 土壌くん蒸剤を使用した後は適切な管理をしましょう
- ③ 住宅地等で農薬を使用する際には、周辺への配慮及び飛散防止対策をしましょう
- ④ 農薬の保管管理を徹底しましょう



農薬危害防止運動  
リーフレット

《お問い合わせ先》

宮城県病害虫防除所

〒981-0914 仙台市青葉区堤通雨宮町4-17

TEL:022-275-8982 FAX:022-276-0429

E-mail:[byogai@pref.miyagi.lg.jp](mailto:byogai@pref.miyagi.lg.jp)

★宮城県病害虫防除所から『メルマガ』で  
発生予察情報の発表をお知らせしています★



宮城県病害虫防除所  
トップページ



メルマガ  
登録フォーム

## ー7月下旬までの発生予報と防除のポイントー

巡回調査:6月 12～18 日

天候予報:仙台管区气象台6月 18 日発表

### 1 発生予報

病害虫名	発生時期	発生量
斑点落葉病	ー	やや多

#### 予報の根拠

- (1)巡回調査の結果、新梢葉における発生地点率及び発病葉率は平年よりやや高かった。( /+)  
 (2)高温多湿が発生に好適であり、向こう1か月の平均気温は平年並か低く( /±)、降水量はほぼ平年並と予報されている。( /±)

病害虫名	発生時期	発生量
モモシクイガ	ー	平年並

#### 予報の根拠

- (1) 前年の発生量が平年並だったことから、越冬量は平年並と推測される。( /±)

#### ※ 予報の根拠 (発生時期 / 発生量)

発生時期・・・(+):遅くなる要因 (±):平年並になる要因 (ー):早くなる要因 (空欄):該当せず  
 発生量・・・(+):多くなる要因 (±):平年並になる要因 (ー):少なくなる要因 (空欄):該当せず

### 2 防除のポイント

#### (1) 共通事項

- ・薬剤散布予定日に降雨が予想される場合は、散布を前倒して降雨前に防除する。また、降雨が続く場合は、散布間隔があかないよう晴れ間をぬって防除を実施する。
- ・スピードスプレーヤによる防除は低速による全列走行とし、薬液のかかりにくい部分は発生源になりやすいことから補完散布する。
- ・病害虫の薬剤抵抗性の発達防止のため、RAC コードが同じ薬剤の連用を避け、計画的にローテーション散布を行う。
- ・DMI 剤(FRAC コード:3)、QoI 剤(FRAC コード:11)及びSDHI 剤(FRAC コード:7)並びにこれらの混合剤は、耐性菌対策のため、それぞれ年間2回以内の使用とする。
- ・果樹の農薬使用回数は、前作の収穫後からのカウントになるので注意する。

#### (2) 斑点落葉病

- ・発病葉率の高いほ場が確認されたことから、薬剤防除の際は、発病した新梢や徒長枝を取り除き、十分量の薬液を散布ムラのないように散布する。
- ・本病は感染から発病までの潜伏期間が数日から7日程度と短く、最低気温が 20℃以上で3日以上降雨が続くと急増する傾向がある。今後の発生に注意するとともに、曇雨天が続く場合でも晴れ間をぬって防除を実施するなど、適期防除に努める。

#### (3) モモシクイガ

- ・産卵場所となりやすい「がくあ部(果頂部)」をよく観察するなどして、防除適期の把握に努める。

- ・殺虫剤散布の補助手段として、交信かく乱剤の使用も効果的である。
- ・被害果(ほ場周辺のうめ、もも、すもも等も含む)は、次世代の発生源となるので、幼虫脱出前に取り除き、5日以上水漬けするなどして適切に処分する。

#### (4) 果樹カメムシ類

- ・摘果作業時にはほ場内を注意深く観察し、被害果実を見つけ次第摘果するとともに、ほ場への飛来数が目立つ場合は、カメムシ類に登録のある農薬を散布する。
- ・フェロモントラップ調査結果を参照する <https://www.pref.miyagi.jp/soshiki/byogai/trap.html>

## 農薬危害防止運動実施中！

宮城県では、令和8年6月1日から8月31日を農薬危害防止運動実施期間と定め、農薬の安全・適正使用を推進しています。農薬による事故を未然に防ぎ、消費者の皆さんに安全・安心な農作物を届けるため、農薬は適正に使用しましょう。

- ① 農薬容器のラベルをよく読みましょう
- ② 土壌くん蒸剤を使用した後は適切な管理をしましょう
- ③ 住宅地等で農薬を使用する際には、周辺への配慮及び飛散防止対策をしましょう
- ④ 農薬の保管管理を徹底しましょう



農薬危害防止運動  
リーフレット

《お問い合わせ先》

宮城県病害虫防除所

〒981-0914 仙台市青葉区堤通雨宮町4-17

TEL:022-275-8982 FAX:022-276-0429

E-mail:[byogai@pref.miyagi.lg.jp](mailto:byogai@pref.miyagi.lg.jp)

★宮城県病害虫防除所から『メルマガ』で  
発生子察情報の発表をお知らせしています★



宮城県病害虫防除所  
トップページ



メルマガ  
登録フォーム

## ー7月下旬までの発生予報と防除のポイントー

巡回調査:6月 16～17 日

天候予報:仙台管区气象台6月 18 日発表

### 1 発生予報

病害虫名	発生時期	発生量
黒星病	ー	平年並

#### 予報の根拠

- (1)巡回調査の結果、果そう葉や果実における発病は平年並であった。( /±)
- (2)気温 20℃前後で多湿が発生に好適であり、向こう1か月の平均気温は平年並か低く( /±)、降水量はほぼ平年並と予報されている。( /±)

#### ※ 予報の根拠 (発生時期 / 発生量)

発生時期・・・(+):遅くなる要因 (±):平年並になる要因 (ー):早くなる要因 (空欄):該当せず  
発生量・・・(+):多くなる要因 (±):平年並になる要因 (ー):少なくなる要因 (空欄):該当せず

### 2 防除のポイント

#### (1)共通事項

- ・薬剤散布予定日に降雨が予想される場合は、散布を前倒して降雨前に防除する。また、降雨が続く場合は、散布間隔があかないよう晴れ間をぬって防除を実施する。
- ・スピードスプレーヤによる防除は低速による全列走行とし、薬液のかかりにくい部分は発生源になりやすいことから補完散布する。
- ・病害虫の薬剤抵抗性の発達防止のため、RAC コードが同じ薬剤の連用を避け、計画的にローテーション散布を行う。
- ・本県では、DMI 剤(FRAC コード:3)、QoI 剤(FRAC コード:11)、SDHI 剤(FRAC コード:7)の耐性菌は確認されていないが、これらの殺菌剤の使用は、混合剤を含め、それぞれ年2回以内とする。
- ・果樹の農薬使用回数は、前作の収穫後からのカウントになるので注意する。

#### (2)黒星病

- ・本病は感染から発病までの潜伏期間が 14～30 日であり、まとまった降雨の後しばらく経過してから、急に症状が現れることがある。今後の発生に注意するとともに、防除間隔があかないよう定期的な予防防除に努める。
- ・発病部位は伝染源となるので見つけ次第除去し、ほ場外へ持ち出して土中に埋めるなど適切に処分する。
- ・不要な徒長枝を取り除き、薬剤が樹木全体に行き渡るように管理する。

#### (3)果樹カメムシ類

- ・摘果作業時にはほ場内を注意深く観察し、被害果実を見つけ次第摘果するとともに、ほ場への飛来数が目立つ場合は、カメムシ類に登録のある農薬を散布する。
- ・フェロモントラップ調査結果を参照する <https://www.pref.miyagi.jp/soshiki/byogai/trap.html>

## 農薬危害防止運動実施中！

宮城県では、令和8年6月1日から8月31日を農薬危害防止運動実施期間と定め、農薬の安全・適正使用を推進しています。農薬による事故を未然に防ぎ、消費者の皆さんに安全・安心な農作物を届けるため、農薬は適正に使用しましょう。

- ① 農薬容器のラベルをよく読みましょう
- ② 土壌くん蒸剤を使用した後は適切な管理をしましょう
- ③ 住宅地等で農薬を使用する際には、周辺への配慮及び飛散防止対策をしましょう
- ④ 農薬の保管管理を徹底しましょう



農薬危害防止運動  
リーフレット

《お問い合わせ先》

宮城県病害虫防除所

〒981-0914 仙台市青葉区堤通雨宮町4-17

TEL:022-275-8982 FAX:022-276-0429

E-mail:[byogai@pref.miyagi.lg.jp](mailto:byogai@pref.miyagi.lg.jp)

★宮城県病害虫防除所から『メルマガ』で  
発生予察情報の発表をお知らせしています★



宮城県病害虫防除所  
トップページ



メルマガ  
登録フォーム

## ー7月下旬までの発生予報と防除のポイントー

巡回調査:6月 12~17 日

天候予報:仙台管区气象台6月 18 日発表

### 1 発生予報

病害虫名	発生時期	発生量
うどんこ病	ー	やや多

#### 予報の根拠

- 巡回調査の結果、発生地点率及び発病葉率は平年より高かった。( / + )
- 湿度 45~85%が発生に好適であり、向こう1か月の降水量はほぼ平年並と予報されている。( / ± )

病害虫名	発生時期	発生量
褐斑病	ー	平年並

#### 予報の根拠

- 巡回調査の結果、発生地点率と発病葉率は平年よりやや低かった。( / - )
- 高温多湿が発生に好適であり、向こう1か月の平均気温は平年並か低く( / ±)、降水量はほぼ平年並と予報されている。( / ± )

病害虫名	発生時期	発生量
べと病	ー	平年並

#### 予報の根拠

- 巡回調査の結果、発生地点率と発病葉率は平年よりやや低かった。( / - )
- 多湿が発生に好適であり、向こう1か月の降水量はほぼ平年並と予報されている。( / ± )

#### ※ 予報の根拠 (発生時期 / 発生量)

発生時期・・・(+):遅くなる要因 (±):平年並になる要因 (-):早くなる要因 (空欄):該当せず  
発生量・・・(+):多くなる要因 (±):平年並になる要因 (-):少なくなる要因 (空欄):該当せず

### 2 防除のポイント

#### (1) 共通事項

- 発生はほぼ場ごとに差があるため、ほ場の見回り等による早期発見に努める。
- 施設周辺の雑草は害虫の発生源となるので除草を徹底するとともに、ハウスサイド等の開口部に防虫ネット(0.4mm目合い)を設置する。
- ウイルス病の発病株は、見つけ次第抜き取り施設外へ搬出し適切に処分する。
- 病害虫の薬剤抵抗性の発達防止のため、RAC コードが同じ薬剤の連用を避け、計画的にローテーション散布を行う。

#### (2) うどんこ病、褐斑病、べと病

- 肥料切れや着果過多、樹勢の低下は発病を助長するため、適切な栽培管理を行う。
- 多発してからの防除は困難なので、予防防除に重点をおいた薬剤散布を実施する。

## 農薬危害防止運動実施中！

宮城県では、令和8年6月1日から8月31日を農薬危害防止運動実施期間と定め、農薬の安全・適正使用を推進しています。農薬による事故を未然に防ぎ、消費者の皆さんに安全・安心な農作物を届けるため、農薬は適正に使用しましょう。

- ① 農薬容器のラベルをよく読みましょう
- ② 土壌くん蒸剤を使用した後は適切な管理をしましょう
- ③ 住宅地等で農薬を使用する際には、周辺への配慮及び飛散防止対策をしましょう
- ④ 農薬の保管管理を徹底しましょう



農薬危害防止運動  
リーフレット

### 《お問い合わせ先》

宮城県病害虫防除所

〒981-0914 仙台市青葉区堤通雨宮町4-17

TEL:022-275-8982 FAX:022-276-0429

E-mail:[byogai@pref.miyagi.lg.jp](mailto:byogai@pref.miyagi.lg.jp)

★宮城県病害虫防除所から『メルマガ』で  
発生予察情報の発表をお知らせしています★



宮城県病害虫防除所  
トップページ



メルマガ  
登録フォーム

## ー7月下旬までの発生予報と防除のポイントー

巡回調査:6月12～17日

天候予報:仙台管区气象台6月18日発表

### 1 発生予報

病害虫名	発生時期	発生量
アザミウマ類	ー	平年並

#### 予報の根拠

- (1) 巡回調査の結果、発生地点率は平年並( /±)、寄生花率は平年よりやや低かった。( /ー)
- (2) 高温乾燥が発生に好適であり、向こう1か月の平均気温は平年並か低く( /±)、降水量はほぼ平年並と予報されている。( /±)

病害虫名	発生時期	発生量
コナジラミ類	ー	やや多

#### 予報の根拠

- (1) 巡回調査の結果、発生地点率は高く( /+)、寄生株率は平年より高かった。( /+)
- (2) 確認された寄生種はオンシツコナジラミであった。
- (3) 高温が発生に好適であり、向こう1か月の平均気温は平年並か低いと予報されている。( /±)

#### ※ 予報の根拠 (発生時期 / 発生量)

発生時期・・・(+):遅くなる要因 (±):平年並になる要因 (ー):早くなる要因 (空欄):該当せず  
発生量・・・(+):多くなる要因 (±):平年並になる要因 (ー):少なくなる要因 (空欄):該当せず

### 2 防除のポイント

#### (1) 共通事項

- ・発生はほ場ごとに差があるため、ほ場の見回り等による早期発見に努める。
- ・施設周辺の雑草は害虫の発生源となるので除草を徹底するとともに、ハウスサイド等の開口部に防虫ネット(0.4mm目合い)を設置する。
- ・ウイルス病の発病株は、見つけ次第抜き取り施設外へ搬出し適切に処分する。
- ・植物体の過繁茂は、病害の発生を助長するほか、薬剤の散布ムラや病害虫の発生を見落とす可能性があるため、適切に栽培管理を行う。病害虫が多発してからの防除は困難になるので、初期防除の徹底を心がける。
- ・訪花昆虫を利用する場合は、訪花昆虫の影響日数に注意して使用薬剤を選択する。
- ・病害虫の薬剤抵抗性の発達防止のため、RACコードが同じ薬剤の連用を避け、計画的にローテーション散布を行う。

#### (2) アザミウマ類

- ・野外では5～7月の各種雑草の開花期に発生量が多くなるので、施設内への飛込に注意する。
- ・卵から成虫までの発育期間は25℃で約14日であるので、発生が多い場合は、7日間隔で2～3回RACコードの異なる薬剤をローテーション散布する。

### (3)コナジラミ類

- ・コナジラミ類の寄生密度が高くなると、排泄物で果実や葉が汚れたり、タバココナジラミでは果実の着色異常が起こるので、ほ場をよく見回り、発生初期からの防除を徹底する。
- ・タバココナジラミの発生が低密度でも黄化葉巻病ウイルスを媒介するため、黄色粘着トラップ等を設置したりほ場の見回りを行い、訪虫の有無等を観察する。発生を確認したら、発生が初期のうちに防除を行う。

### (4)すすかび病

- ・真夏から秋に発病しやすいが、多発してからの防除は困難なので、予防防除に重きをおく。
- ・病原菌が葉に感染してから病斑が発生するまで2週間以上と潜伏期間が長く、発生を確認した時にはすでに他の株にも潜在感染している可能性があるため、見つけ次第速やかに防除を実施する。

## 農薬危害防止運動実施中！

宮城県では、令和8年6月1日から8月31日を農薬危害防止運動実施期間と定め、農薬の安全・適正使用を推進しています。農薬による事故を未然に防ぎ、消費者の皆さんに安全・安心な農作物を届けるため、農薬は適正に使用しましょう。

- ① 農薬容器のラベルをよく読みましょう
- ② 土壌くん蒸剤を使用した後は適切な管理をしましょう
- ③ 住宅地等で農薬を使用する際には、周辺への配慮及び飛散防止対策をしましょう
- ④ 農薬の保管管理を徹底しましょう



農薬危害防止運動  
リーフレット

#### 《お問い合わせ先》

宮城県病害虫防除所  
〒981-0914 仙台市青葉区堤通雨宮町4-17  
TEL:022-275-8982 FAX:022-276-0429  
E-mail:[byogai@pref.miyagi.lg.jp](mailto:byogai@pref.miyagi.lg.jp)

★宮城県病害虫防除所から『メルマガ』で  
発生予察情報の発表をお知らせしています★



宮城県病害虫防除所  
トップページ



メルマガ  
登録フォーム

## ー7月下旬までの発生予報と防除のポイントー

巡回調査:6月 12, 15 日(親株)

天候予報:仙台管区气象台6月 18 日発表

### 1 発生予報

病害虫名	発生時期	発生量
炭疽病	ー	平年並

#### 予報の根拠

- (1) 巡回調査の結果、発生は確認されなかった(例年、この時期の調査では発生は確認されていない)。( / ± )
- (2) 高温多湿が発生に好適であり、向こう1か月の平均気温は平年並か低く( / ±)、降水量はほぼ平年並と予報されている。( / ±)

病害虫名	発生時期	発生量
ハダニ類	ー	平年並

#### 予報の根拠

- (1) 巡回調査の結果、発生地点率はやや低く( / -)、寄生頭数は平年並であった。( / ±)
- (2) 高温乾燥が発生に好適であり、向こう1か月の平均気温は平年並か低く( / ±)、降水量はほぼ平年並と予報されている。( / ±)

#### ※ 予報の根拠 (発生時期 / 発生量)

発生時期・・・(+):遅くなる要因 (±):平年並になる要因 (-):早くなる要因 (空欄):該当せず  
発生量・・・(+):多くなる要因 (±):平年並になる要因 (-):少なくなる要因 (空欄):該当せず

### 2 防除のポイント

#### (1) 共通事項

- 適切な肥培管理及び予防防除を徹底し、健苗育成に努める。
- いちごの農薬使用回数は、親株からランナーを切り離れた時点から収穫終了までとなる。
- 本ぼにおける初期病害虫の発生の多くは育苗からの持ち込みが原因であるので、親株・育苗期間中もしっかり防除を行う。
- 施設周辺の雑草は害虫の発生源となるので除草を徹底するとともに、ハウスサイド等の開口部に防虫ネット(0.4mm目合い等)を設置する。
- 病害虫の薬剤抵抗性の発達防止のため、RAC コードが同じ薬剤の連用を避け、計画的にローテーション散布を行う。

#### (2) うどんこ病

- 最初に葉裏に発生しやすいので、こまめに葉裏を観察して早期発見に努め、発生初期に防除を実施する。
- 夏季の高温で発病が一時減少するように見えるが、菌糸で越夏し、気温の低下とともに蔓延するので、きちんと予防防除に努める。

### (3)炭疽病

- ・発病株は伝染源となるので、ほ場内をよく見回り、見つけ次第早急にその周辺の株も含め抜き取り適切に処分する。
- ・水滴の跳ね上がり等で伝染するので、育苗ほでは可能な限り頭上かん水は避け、かん水チューブや底面給水等によりかん水を行う。また、葉の濡れ時間が長くならないよう遅い時間のかん水は避け、日没までに水滴が乾くよう実施する。
- ・発病株の残渣が土壌中に残り伝染源となるため、使用資材は農業資材用の消毒剤で洗浄するか、更新する。
- ・高温多湿は病原菌の増殖に好適であるとともに、苗が軟弱になり炭疽病にかかりやすくなるとされるので、ハウスの排水対策を徹底する。また、遮光率の高い遮光資材はかけっぱなしせず開閉し、イチゴに当てる日照量を増やすなどして健苗育成に努める。
- ・予防散布の徹底が重要であるので、計画的に薬剤散布を行う。また、薬剤抵抗性の発達を防ぐため RAC コードの異なる薬剤をローテーション散布する。ただし、県内各地で QoI 剤 (FRAC:11) や MBC 剤 (FRAC:1) の耐性菌が確認されているので留意する。

※「普及に移す技術」第 100 号参考資料「宮城県内におけるイチゴ炭疽病菌の薬剤耐性」

<https://www.pref.miyagi.jp/documents/60672/r06sankou13.pdf>

### (4)ハダニ類

- ・人に付着し移動することがあるので、発生が少ないハウスから作業を行うなどし、発生の多いハウスでの作業は後半で行う。
- ・定植前の高濃度炭酸ガス施用は効果が高いが、苗へのハダニの寄生数が多いと高濃度炭酸ガス施用の効果が不十分になるおそれがあるので、親株～育苗期も防除に努める。
- ・気門封鎖剤は物理的に作用する薬剤であり、対象害虫にかからないと効果が得られないため、植物体全体にムラなく丁寧に散布する。
- ・ほ場により効果が低下している殺ダニ剤があるため、薬剤の選定に留意し RAC コードの異なる薬剤を組み合わせ、計画的なローテーション散布を行う。

## 農薬危害防止運動実施中！

宮城県では、令和8年6月1日から8月31日を農薬危害防止運動実施期間と定め、農薬の安全・適正使用を推進しています。農薬による事故を未然に防ぎ、消費者の皆さんに安全・安心な農作物を届けるため、農薬は適正に使用しましょう。

- ① 農薬容器のラベルをよく読みましょう
- ② 土壌くん蒸剤を使用した後は適切な管理をしましょう
- ③ 住宅地等で農薬を使用する際には、周辺への配慮及び飛散防止対策をしましょう
- ④ 農薬の保管管理を徹底しましょう



農薬危害防止運動  
リーフレット

《お問い合わせ先》

宮城県病害虫防除所

〒981-0914 仙台市青葉区堤通雨宮町4-17

TEL:022-275-8982 FAX:022-276-0429

E-mail:[byogai@pref.miyagi.lg.jp](mailto:byogai@pref.miyagi.lg.jp)

★宮城県病害虫防除所から『メルマガ』で

発生予察情報の発表をお知らせしています★



宮城県病害虫防除所  
トップページ



メルマガ  
登録フォーム

## ー7月下旬までの発生予報と防除のポイントー

巡回調査:6月 12～18 日

定点調査は:名取市高館(農業・園芸総合研究所)、大崎市古川大崎(古川農業試験場)

天候予報:仙台管区气象台6月 18 日発表

### 1 発生予報

病害虫名	発生時期	発生量
オオタバコガ	ー	平年並

#### 予報の根拠

- (1) 巡回調査の結果、発生は確認されなかった(トマト、いちご)。( / ± )
- (2) フェロモントラップ(地点数:2)での誘殺数は平年並であった。( / ± )
- (3) 高温少雨が発生に好適であり、向こう1か月の平均気温は平年並か低く( / ± )、降水量はほぼ平年並と予報されている。( / ± )

病害虫名	発生時期	発生量
ハスモンヨトウ	ー	平年並

#### 予報の根拠

- (1) 巡回調査の結果、発生は確認されなかった(トマト、いちご)。( / ± )
- (2) フェロモントラップ(地点数:2)での誘殺数は平年並であった。( / ± )
- (3) 高温少雨が発生に好適であり、向こう1か月の平均気温は平年並か低く( / ± )、降水量はほぼ平年並と予報されている。( / ± )

#### ※ 予報の根拠 (発生時期 / 発生量)

発生時期・・・(+):遅くなる要因 (±):平年並になる要因 (ー):早くなる要因 (空欄):該当せず  
発生量・・・(+):多くなる要因 (±):平年並になる要因 (ー):少なくなる要因 (空欄):該当せず

### 2 防除のポイント

#### (1)共通事項

- ・多くの植物を餌にする広食性害虫であり、野菜、花き等の多くの作物を加害するため、こまめにほ場を見回り早期発見に努める。
- ・幼虫の齢期が進むにつれて防除効果が低下するので、若齢幼虫期での防除を心がける。
- ・施設栽培では開口部へ防虫ネットを設置し、成虫の施設内部への侵入を防ぐ。
- ・病害虫の薬剤抵抗性の発達防止のため、RAC コードが同じ薬剤の連用を避け、計画的にローテーション散布を行う。
- ・フェロモントラップ調査結果を参照する <https://www.pref.miyagi.jp/soshiki/byogai/trap.html>

#### (2)オオタバコガ

- ・宮城県では第1世代が7月中下旬に飛来することが多いので、こまめにほ場を見回り早期発見に努める。
- ・生長点付近の茎葉・蕾・花・幼果に食入すると農薬がかかりにくく防除が困難になるため、農作物に食入する前に防除を行う。
- ・トマトやナス等果菜類の被害果、レタスや花き類等の被害株は、内部に幼虫が生息している場合があるので、ほ場外へ持ち出して適切に処分する。

### (3)ハスモンヨトウ

- ・葉裏に毛でおおわれた卵塊で産卵し、集団で葉を食害するので、見つけ次第除去する。
- ・初発の防除後にも被害が見られる場合は、成虫の飛来が多い状況であるため、被害葉の除去とともに、7～10日間隔で薬剤をローテーション散布し、若齢幼虫を防除する。

## 農薬危害防止運動実施中！

宮城県では、令和8年6月1日から8月31日を農薬危害防止運動実施期間と定め、農薬の安全・適正使用を推進しています。農薬による事故を未然に防ぎ、消費者の皆さんに安全・安心な農作物を届けるため、農薬は適正に使用しましょう。

- ① 農薬容器のラベルをよく読みましょう
- ② 土壌くん蒸剤を使用した後は適切な管理をしましょう
- ③ 住宅地等で農薬を使用する際には、周辺への配慮及び飛散防止対策をしましょう
- ④ 農薬の保管管理を徹底しましょう



農薬危害防止運動  
リーフレット

#### 《お問い合わせ先》

宮城県病害虫防除所

〒981-0914 仙台市青葉区堤通雨宮町4-17

TEL:022-275-8982 FAX:022-276-0429

E-mail:[byogai@pref.miyagi.lg.jp](mailto:byogai@pref.miyagi.lg.jp)

★宮城県病害虫防除所から『メルマガ』で  
発生予察情報の発表をお知らせしています★



宮城県病害虫防除所  
トップページ



メルマガ  
登録フォーム